

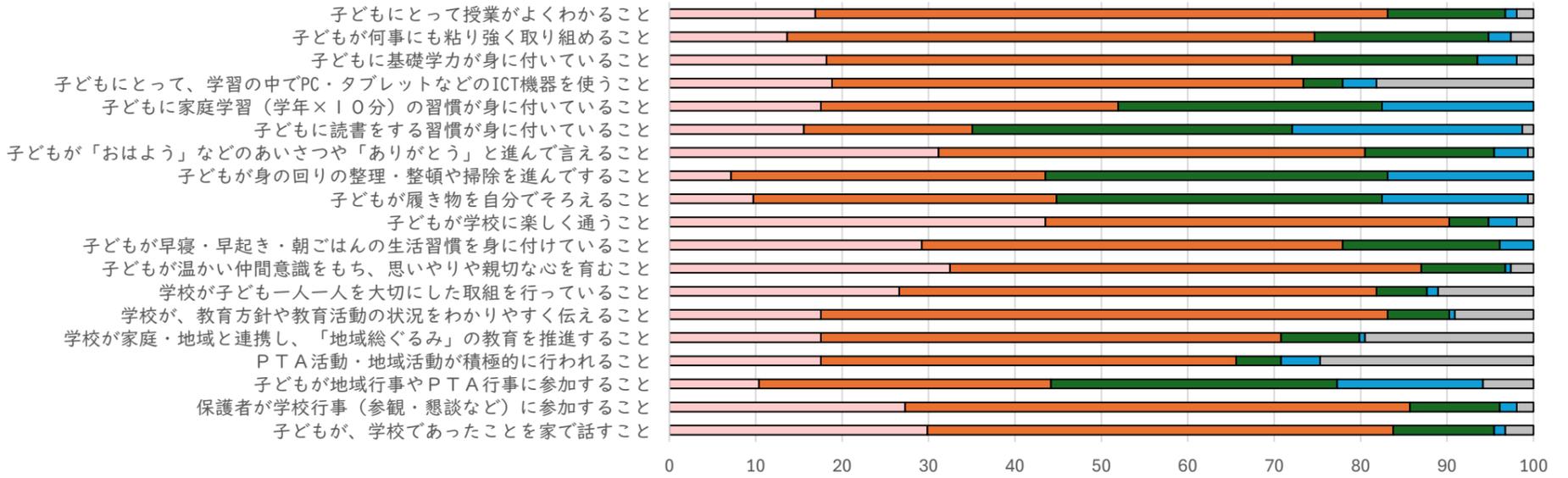


本校の教育活動をより充実させるため、今年度の学校生活などについて児童・保護者を対象にしたアンケートを実施しました。  
お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。

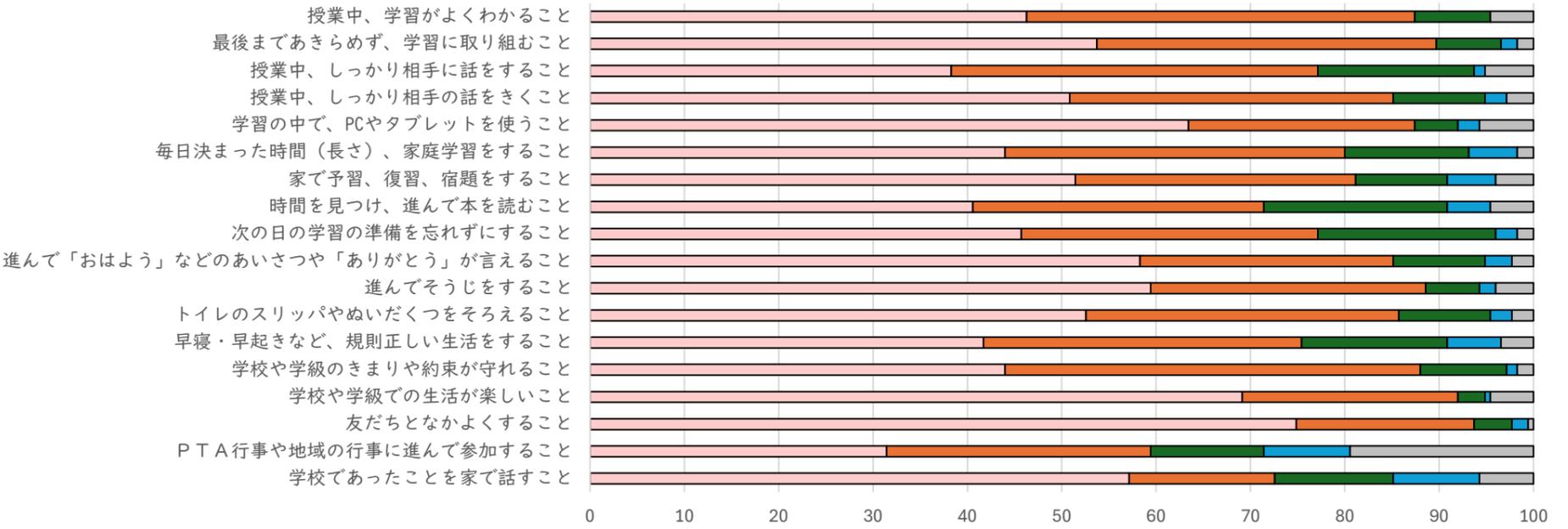
集計結果を今後の学校運営や教育活動に生かし、子どもたちの安全・安心な学校生活を送ること、学力向上への取組、家庭・地域の連携など、よりよい学校づくりに向けて取り組んでいきたいと思ひます。

□よくできている □大体できている □あまりできていない □できていない □わからない (数字は%)

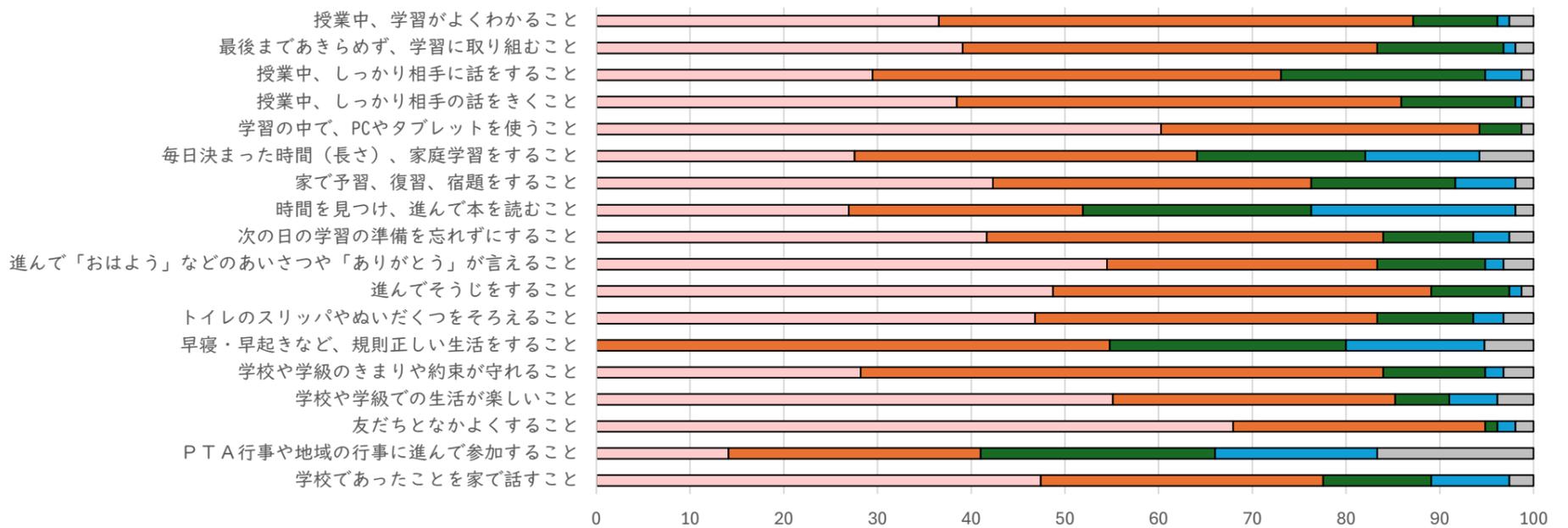
#### 保護者



#### 児童(低学年)



#### 児童(高学年)



## 学校教育目標

育成を目指す資質・能力  
3つの大切

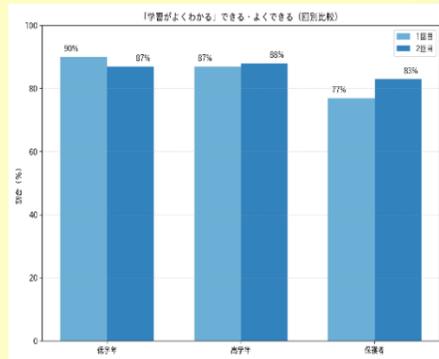
「夢に向かって 自ら学び 共に行動する 梅津北の子」

「思いを伝えあう力」「自己指導能力」

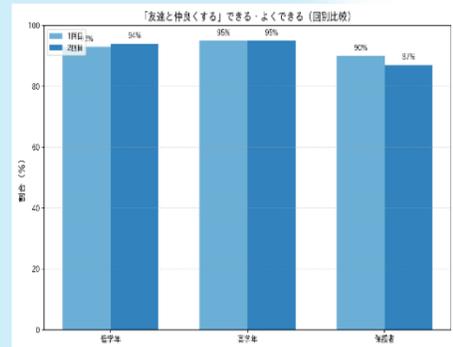
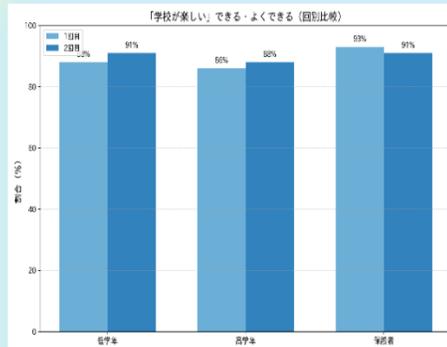
「ことばを大切に じかんを大切に いのちを大切に」

## 確かな学力の育成

- 「授業が分かる」については概ね高い水準を保っています。一時間の学習の中で、「めあて」から始まり、最後の「ふり返し」で児童自身が何について「分かった」「できた」とメタ認知【自分の考えや気持ちを自分で確認すること】ができたかといったところまでを含め、学習の流れを大切にしてきた成果がでています。特に低学年では、具体物を操作したり、体験したりする思考から頭の中で考えていく抽象的な思考に移行する過程を大切にしていきたいと思えます。

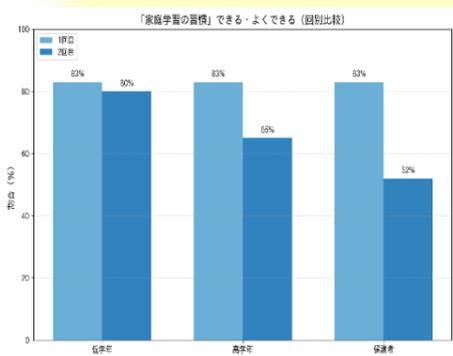


## 豊かな心の育成・健やかな体の育成



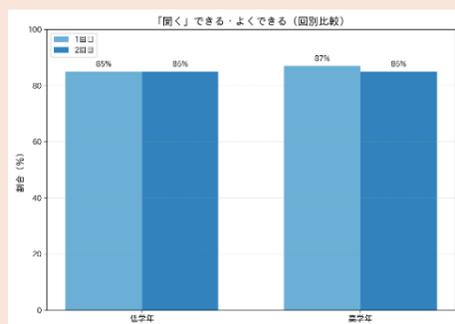
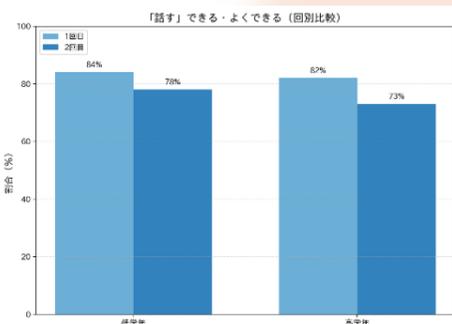
- 「家庭学習の習慣」についてのアンケートでは、1回目・2回目ともに、子どもたちから非常に高い肯定的な回答が得られました。低学年・高学年ともに、学校生活を前向きに捉え、友達との関わりの中で安心して過ごしている様子がうかがえます。
- 「学校が楽しい」という項目では、2回目のアンケートで低学年・高学年ともに数値が上昇し、子どもたちの学校生活への満足感がさらに高まっていることが分かりました。日々の授業や行事、友達との関わりの中で、「学校に行くことが楽しみ」という気持ちを多くの子どもたちがもっているようです。
- 「友達と仲良くする」の項目では、1回目・2回目を通して非常に高い割合が維持されており、学級や学年の中で、思いやりをもって関わろうとする姿が定着してきていることが感じられます。友達と協力したり、助け合ったりする経験が、子どもたちの安心感や自己肯定感につながっているものと考えています。

- 「家庭学習の習慣」についてのアンケートでは、1回目・2回目ともに、子どもたちから非常に高い肯定的な回答が得られました。低学年・高学年ともに、学校生活を前向きに捉え、友達との関わりの中で安心して過ごしている様子がうかがえます。
- 「学校が楽しい」という項目では、2回目のアンケートで低学年・高学年ともに数値が上昇し、子どもたちの学校生活への満足感がさらに高まっていることが分かりました。日々の授業や行事、友達との関わりの中で、「学校に行くことが楽しみ」という気持ちを多くの子どもたちがもっているようです。
- 「友達と仲良くする」の項目では、1回目・2回目を通して非常に高い割合が維持されており、学級や学年の中で、思いやりをもって関わろうとする姿が定着してきていることが感じられます。友達と協力したり、助け合ったりする経験が、子どもたちの安心感や自己肯定感につながっているものと考えています。



ご家庭でも「短い時間でも机に向かえたこと」や「自分から始めようとしたこと」を温かく認めていただくと幸いです。学校と家庭が同じ方向を向いて、子どもたちの学びを支えていきたいと考えています。

## 「思いを伝えあう力」の育成



- 「思いを伝えあう力」の観点では、「聞く」は低・高学年とも85%で安定し、日常の学び合いが根づいています。一方、「話す」は低学年78%・高学年73%へと下がり、人前で自分の考えをまとめて伝える場面で苦手さを感じてしまうのかもしれない。
- 学校ではペア→小グループ→全体へ段階的に話す場を設け、子どもたちが自分の思いや考えを表現し、それらを共有する喜びが感じられるようにしていきます。

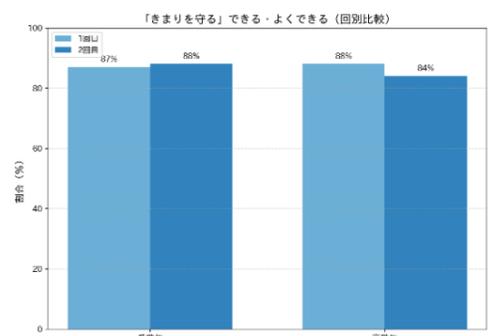
## 「自己指導能力」の育成

今回のアンケート結果から、子どもたちは「聞く力」や「きまりを守る力」を安定して身に付けている一方で、「話す力」については、自分の考えを整理して伝えることに難しさを感じる場面があることが分かりました。特に高学年になるにつれて、慎重にふり返る姿がうかがえます。

このような結果を踏まえ、本校では異学年交流「ピア・ウメキタ」や「梅北っ子 まなび交流会」、そして日々の学び合いの活動を通して、子どもたちが自分の行動や言葉を自ら調整し、よりよい関わり方を考える「自己指導能力」を育てていきたいと考えています。

低学年は高学年の姿を手本にしながら行動の仕方を学び、高学年は低学年に分かりやすく伝えたり支えたりする経験を通して、自分の役割や責任を意識する機会が増えています。

こうした関わりの中で、「どうすれば伝わるか」「次はどう行動すればよいか」と考える力が育ち、自己をふり返りながら行動する力につながっていきます。学校では、異学年での学習や活動を大切にしながら、子どもたち一人一人が自分で考え、判断し、行動できる力を今後も伸ばしてまいります。



## 学校運営協議会理事の方より

- ・児童館では、宿題をしてから遊ぶように声をかけている。宿題をしてから遊ぶことで時間のメリハリがつく。
- ・家庭学習の自主学習は内容に個人差がある。方法や内容の例も含めて、児童・保護者に分かりやすく示していく必要がある。
- ・学校や地域で子どもも大人も関わりが薄くなってきている。どうやってコミュニケーションをとっていくのか一緒に考えていきたい。
- ・アンケートの回収率が低くなっている。学校の取組を理解してもらえるように、分かりやすく発信していく。
- ・読者や挨拶は、学校でも家でも習慣化されると良い。